

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 41人 | 算数 | 42人 | 理科 | 42人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第5学年 | 国語 | 38人 | 算数 | 38人 | 理科 | 38人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

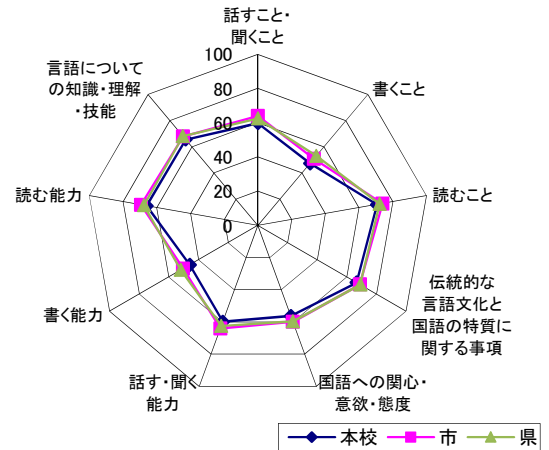
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 59.8 | 64.0 | 62.5 |
| | 書くこと | 47.4 | 50.9 | 53.1 |
| | 読むこと | 70.7 | 73.9 | 72.2 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 66.7 | 68.9 | 69.1 |
| 観点 | 国語への関心・意欲・態度 | 56.3 | 59.9 | 59.7 |
| | 話す・聞く能力 | 59.8 | 64.0 | 62.5 |
| | 書く能力 | 46.0 | 50.4 | 52.0 |
| | 読む能力 | 66.0 | 69.3 | 67.6 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 65.6 | 67.9 | 68.2 |



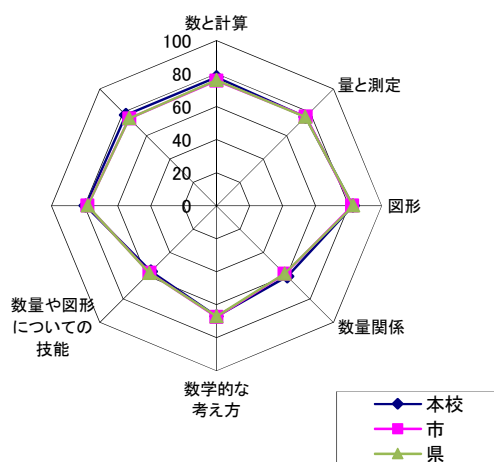
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は、県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを落とさないように聞き取ることや話し方の工夫に注意して聞き取るとは県の平均を上回っている。 ・話題に沿って、自分の意見とその理由を実際に話すように記述する問題では正答率が低く、発言の仕方について必要な条件に合うように答える力が不十分であった。 ・インタビューの質問のねらいを問う問題では何のためにその質問をしているのかを理解できていて、県とほぼ同じである。 ・聞きたいことをもとに、条件に合うように質問を考える問題では、正答率が低い。条件に合わせて質問する力が不十分である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、他の人に分かるように理由を説明したり、他の人の考えに対して自分はどう思うかを話したり、課題に合った答え方を意図的に取り入れていく。 ・学級活動や各教科の中で、話し合いの場を積極的に設け、答え方や話し方を身に付けていく。 ・学年に応じて、インタビューの仕方を学び、校外学習や総合的な学習の時間などで実践を積み重ねていく。 ・相手に伝わるように筋道を立てて話ができるように、朝のスピーチや日々の生活の中で指導する。 |
| 書くこと | <p>平均正答率は、県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定された長さで文章を書くことは県の平均とほぼ同じであるが、2段落構成で書くことは県を大きく下回っている。 ・1つ目の段落にはどちらの方法がよいか、2つ目の段落にはよいと思う理由や、もう一方を選ばない理由を書くという条件に合った文章が書けていない。県の平均を大きく下回っている。自分の考えを聞かれたときに、何をどのように答えたらよいのかが分かっていない様子が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・時数を制限したり、2段落構成などの条件を与えたりして、目的に合った文章が書けるよう、様々な練習問題を行う。 ・授業の最後の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 ・連絡帳にその日の一行日記を書いたり、自主学習で日記を書いたり、毎日簡単にできることを積み重ねていくことで、日常的に書く習慣を身に付ける。 ・朝の学習や授業中などに、文章の構成を意識して書けるよう、工夫した問題で繰り返し練習して定着を図る。 |
| 読むこと | <p>平均正答率は、県や市とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語文では場面の様子を読み取る問題は県の平均を大きく上回り、登場人物の気持ちを読み取る問題、目的や必要に応じて、場面の様子と登場人物の気持ちを読み取る問題は、県の平均とほぼ同じである。 ・説明文では、文章の内容を的確に読み取ることは県の平均を下回っている。段落の役割を理解して文章の内容を読み取る問題では、県の平均と同等であるが、段落と段落の関係を理解する力が不十分である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き読書に親しむ態度を育てる。読書の幅が広がるよう声をかけ、いろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落ごとの要点を整理したり、中心となる語を捉えたりする活動を丁寧に行い、読み取る力を身に付ける。また、段落と段落の関係や段落構成を考える活動を十分にとって、理解力を高める。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>平均正答率は、県や市を少し下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きは毎日の取り組みの成果が表れ、県の平均と同等である。熟語や似たところのある漢字の書き取りで少し平均を下回っている。 ・主語と述語やローマ字は県とほぼ同じである。国語辞典の使い方では、使い方は分かっているが、どんな言葉で載っているかを問われる問題が正答率が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きは定着しつつあるので、引き続き練習だけでなく、日常生活でも習った漢字を使う習慣づけをして定着を図る。 ・国語辞典を日常的に活用し、触れる機会を多くすることで、どんな形で載っているのかを理解できるようにする。 |

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 77.8 | 75.8 | 76.1 |
| | 量と測定 | 76.2 | 76.5 | 76.0 |
| | 図形 | 82.5 | 82.1 | 82.7 |
| | 数量関係 | 60.5 | 58.4 | 58.2 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度 | 67.0 | 67.4 | 67.0 |
| | 数学的な考え方 | 56.3 | 57.5 | 57.7 |
| | 数量や図形についての技能 | 79.3 | 78.2 | 78.1 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 77.7 | 74.8 | 74.9 |



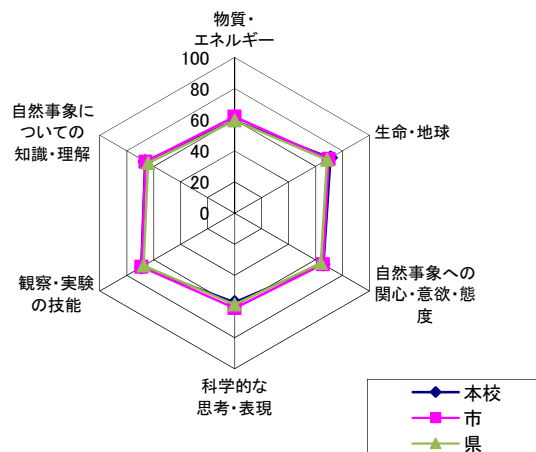
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|--|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算についての設問では、正答率が県や市とほぼ同じ、または上回っており、正確に計算する力が定着している。しかし、わり算を用いて何かかを求める式を選択する設問では正答率が低く、乗法や除法の意味についての理解が不十分である。 十進位取り記数法についての設問では、正答率が県や市を上回り、9割以上の正答率であった。しかし、大きい数が1000のいくつ分であるかを問う設問では、正答率が5割と低く、数の相対的な大きさについての理解が不十分である。 2桁×2桁の工夫した計算の仕方を説明する設問では、県や市と比べて正答率が低く、工夫した計算の仕方についての理解が不十分である。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から朝の学習や家庭学習などを活用して、加減乗除の計算問題や文章題に積極的に取り組んだことで、基本的な計算力の定着が図れたと言える。今後も取り組みを継続させ、基礎基本の定着を図っていく。また、文章から加減乗除の特徴が読み取れるように、低学年から線分図や数直線、□を使った式で表すなど具体的な方法を示し、立式につなげられるよう指導をしていく。 工夫した計算の仕方を説明する設問は、友達の考えを生かして考えることができれば、正答を導き出せる設問であった。日頃から、授業の中で友達の考えを自分の言葉で説明したり、友達の説明の続きを考えたりと、友達の考えを生かして考える機会を効果的に設定し、理解を深められるようにしていく。 |
| 量と測定 | <p>平均正答率は、県や市とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時刻と時間の問題で、ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める設問では、県や市と比べて正答率が高く、8割以上の正答率であった。しかし、2つの時刻の間の時間を求める設問では、県や市と比べて正答率が低く、理解が不十分である。 はかりの目盛りを読む設問や身近なものの重さの単位についての設問では、県や市と比べて正答率が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> 時刻と時間の学習では、日常生活の中で時間を量としてとらえる機会を増やし、苦手意識をなくすよう指導をしていく。また、設問の中に時計の図が明記してある場合は、図に書き込みを行うなど、求め方についての具体的な指導を行う。 授業に体験的な学習を取り入れ、日常生活と関連付けて理解が図れるよう指導を行っていく。特に、重さの学習の際には、児童自身が実際に具体物を手に持ち、重さを実感しながら測定する活動を取り入れ、重さの感覚を身に付けられるよう指導する。また、1目盛りの大きさの異なる様々なはかりを用いて重さを図るなど、目盛りの読み方の習熟を図る。 |
| 図形 | <p>平均正答率は、県や市とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図の中から円の直径を見つける設問は、県や市を上回り、9割以上の正答率であった。しかし、球の半径から球が入った箱の辺の長さを求める設問では、正答率が6割と低かった。 正三角形の作図では、県や市とほぼ同じく8割以上の正答率であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 円と球の学習では、半径や直径などの用語の意味を確認し、復習を行い確実な定着を図る。 図形の作図は、児童が描きやすい方法だけで作図するのではなく、与えられた1辺の続きを作図するなど、条件のある作図に取り組ませ、様々な方法で作図できる力が身に付くように指導する。その際、円の作図以外のコンパスを使うよさについて触れ、図形の定義と関連付けて指導する。 |
| 数量関係 | <p>平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 未知数□を使った乗法の式に合った文章問題を選択する設問では、県や市の正答率を上回ったが、正答率が5割と低いことから、理解が十分でないといえる。 棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフを描くことができない理由を説明する設問では、正答率が2割と低い。記述式の設問で、正答の条件を満たしていない児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から文章問題に取り組む際には、未知数を□として、□を用いた立式に取り組み、線分図等に表す活動を多く取り入れるなど、加減乗除の意味の理解と□を使った式の定着を図る。 棒グラフの値の読み取りでは、1目盛りの大きさが1以外の様々なグラフの読み取りに取り組む習熟を図る。また、記述式の問題では、条件を整理して説明することができるように、日頃の授業の中で学習のまとめを行う際などに条件を付けて書くなど、苦手意識をなくすよう指導をしていく。 |

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 59.4 | 61.9 | 59.4 |
| | 生命・地球 | 71.1 | 69.8 | 68.5 |
| 観点 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 65.7 | 65.6 | 63.9 |
| | 科学的な思考・表現 | 57.2 | 61.0 | 58.8 |
| | 観察・実験の技能 | 69.2 | 69.0 | 67.4 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 66.5 | 66.1 | 64.2 |



★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|--|--|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、県と同程度である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日光を集めた部分の大きさと明るさや温度の関係についての問題は、正答率が81%と県の平均を大きく上回っており、よく理解している。 物の重さの問題で、形を変えても重さは変わらないことに関する設問では、正答率が97.6%と県の平均を大きく上回っており、よく理解している。 風やゴムに関する問題では、2つのおもちゃを比較して、ゴムのはたらきについて推測する設問では、正答率が40.5%と低く、県の平均を下回っている。 電気の問題では、電気工事をしている人がゴム手袋などをして作業をする理由を説明する設問において、正答率が16.7%と低く、正しく説明することができない児童が多かった。 | <ul style="list-style-type: none"> 理科に関する基本的な知識は身につけていると思われるので、今後も継続して基礎・基本をしっかりと押さえながら指導していく。 風やゴムに関する問題では、基本的な法則は理解していると思われるが、2つの異なるモデルを比較して、その違いからゴムの伸びが異なることなどが推測できていないので、今後は身の回りの事象などに既習の法則などを当てはめて考える場面などをさらに増やしていく。 推測したことを説明するような自分の言葉で回答するタイプの設問に課題が見られるので、今後は自分の考えや推測を記述する機会を重点的に取り入れていきたい。 |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、市や県を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の観察では、ダンゴムシのすみかを問う設問において、正答率が100%であり、よく理解できていた。 植物の育つ順序に関する設問では、正答率が64.3%と高く、植物の一生についてよく理解ができている。 チョウがたまごから成虫になるまでの期間に関する設問は、正答率が64.3%と高く、昆虫の成長についてよく理解している。 太陽とかげの動きに関する設問では、正答率が26.2%と低く、太陽の動きとかげの動きが反対になることがよく理解されていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 理科に関する基本的な知識はしっかりと身につけていると思われるので、今後も継続して基礎・基本を押さえながらさらに発展的な問題についても指導していく。 実験結果などが知識として定着していると思われるので、今後も一連の実験活動を重視した授業を継続していく。 太陽とかげの動きについて、太陽の動きについては理解できているにも関わらず、かげの動きについての理解が弱かったと考えられる。今後は、かげの動きが、太陽とは反対になるということから、かげの動きを推測できるよう、法則から事象を推測する活動を増やして指導していく。 |

宇都宮市立田原西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は82.9%、「早寝早起きを心掛けている」と回答した児童の割合は85.4%と、比較的規則正しい家庭生活を送っていることが分かった。保護者の協力を得られているので、今後も同様をお願いしていく。

・ふだん1日当たり、どれくらいの時間テレビやDVD、テレビゲームや携帯ゲーム、スマートフォンや携帯電話に時間を費やしているかについては、どの項目も県や市の平均時間を上回っている。また、1日当たりの学習時間が30分より少ない児童が29.3%、読書を全くしない児童が24.4%いることが分かった。就寝が早く、テレビやゲームに時間を多く費やしていることから、学習や読書に時間を使うことができていないと考えられる。家庭での学習時間の確保について、さらにお願ひしていく。

・「家の人と将来のことについて話すことがある」と回答した児童の割合は73.2%、「家の人には、あなたがほめてもらいたいことを褒めてくれる」と回答した児童の割合は92.7%と、どちらも県を約10%上回っている。家庭内で、我が子と語り合い、褒めて伸ばそうとしていることが分かる。しかし、「家の人と学習について話している」と回答した児童の割合は73.2%と市や県を少し下回っているため、児童が一番自信もてずにいるその点についてこそ、家庭内で話し合ったりアドバイスをしあげたりできるように保護者に具体的な内容を伝えていく。

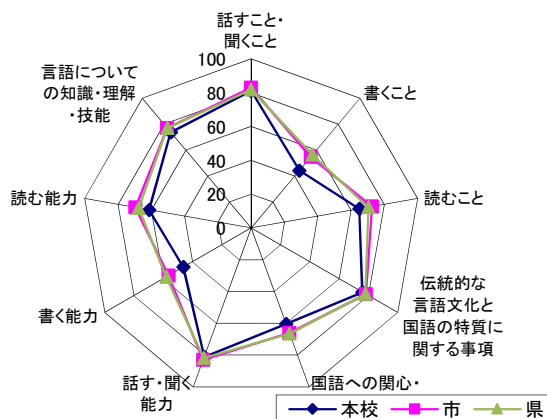
・国語、社会、算数、総合的な学習の時間について、将来のために大切だと回答した児童の割合が、市や県を上回っているが、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は53.7%と市や県を20%以上下回っている。さらに、「家で、学校の授業の予習をしている」児童は39%と市や県を15%以上下回り、「宿題をしている」「復習をしている」「テストでまちがえた問題について勉強している」の全ての項目で市や県を10%程度下回っている。学習の大切さに気付いてはいても、計画的に学習できていないことが分かる。基礎的な学習の大切さを伝え具体的な方法を指導したり個々の取り組みについて褒め励ましたりするとともに、各家庭には、すでに配布済みの「自主学習のヒントメニュー」の活用や児童の取り組みに目を通しその様子や結果をしっかりと把握しアドバイスをしようお願ひしていく。

・辞書を使って調べている児童の割合が78%と市や県を15%以上上回っている。校内体制で、国語辞典の大切さを伝え活用を促してきた結果が現れていると考えられる。今後も、十分活用させ語彙を増やし、豊かな言語活動の基礎を築けるよう支援していく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 81.1 | 82.9 | 81.8 |
| | 書くこと | 44.3 | 54.8 | 56.5 |
| | 読むこと | 65.0 | 72.6 | 70.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 75.9 | 78.4 | 78.1 |
| 観点 | 国語への関心・意欲・態度 | 60.4 | 66.0 | 66.4 |
| | 話す・聞く能力 | 81.1 | 82.9 | 81.8 |
| | 書く能力 | 46.3 | 56.3 | 57.9 |
| | 読む能力 | 61.3 | 69.5 | 67.6 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 73.9 | 77.2 | 77.1 |



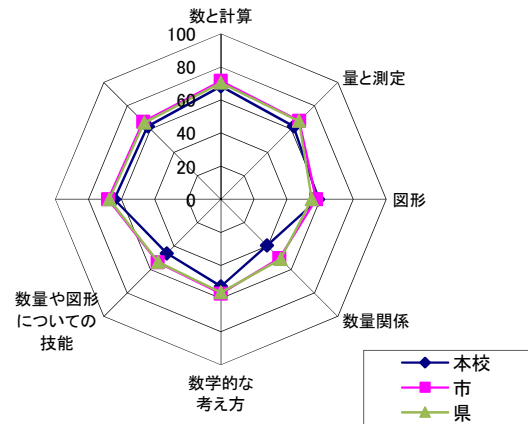
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は県や市とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いにおいて、話の中心に気をつけたり、話し方の工夫に注意して聞いたりすることは県の平均を上回っている。 話し合いにおける司会の役割として、参加者の発言の共通点を文章にまとめる問題は大きく下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、話し合いの場を多く設定する。少人数で行う時は、毎回司会者を変え、誰でも司会進行ができるよう工夫する。 聞き手に伝わるように、朝のスピーチや日々の生活の中で筋道を立てた話の仕方を指導していく。 |
| 書くこと | <p>平均正答率は県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された長さで文章を書くことはできているが、2段落構成にしたり書こうとする中心を明確にしたりするなど、活用型の問題では大きく平均を下回っている。 絵や資料などからの情報を適切に取り取り、ポスターに合う文章を書く問題では、大きく平均を下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の最後の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 連絡帳にその日の一行日記を書いたり、自主学习で日記を書いたり、毎日簡単にできることを積み重ねていくことで日常的に書く習慣を身に付ける。 朝の学習や授業中などに、文章の構成を意識して書けるよう、工夫した問題で繰り返し練習して定着を図る。 |
| 読むこと | <p>平均正答率は、県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語文では、登場人物の気持ちを読み取る設問で県の平均とほぼ同じである。 説明文の読み取りでは、内容を読み取って、3つのまとまりに分ける問題が県や市を大きく下回っている。段落のまとまりを理解し、的確に読み取る力が課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた音読の取り組み方を工夫し、目で文章を追ったり、短時間に集中して読めるような力をつけさせる。 物語文では、授業の中で友達の考えを聞き、多面的な視点で登場人物の気持ちを読み取れるように工夫する。 説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>平均正答率は県や市とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き、修飾語や指示語などの基礎的な事項がよく身に付いている。 漢字辞典の使い方を問う設問が、平均を大きく下回っている。部首索引、総画索引の調べ方が身に付いていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字は、朝の学習や宿題などで繰り返し練習する他に、いろいろな熟語に触れたり、文章の中で漢字を使ったりする取り組みを行った成果が少しずつ表れてきていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 漢字辞典の使い方は授業で取り扱う時数が少ないので、朝の学習や自主学习で使う機会を増やし、調べ方を理解させる。 |

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 68.3 | 71.5 | 70.4 |
| | 量と測定 | 62.3 | 67.0 | 66.9 |
| | 図形 | 58.9 | 57.6 | 55.0 |
| | 数量関係 | 39.5 | 50.2 | 51.1 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度 | 52.6 | 57.0 | 56.3 |
| | 数学的な考え方 | 46.1 | 53.8 | 53.6 |
| | 数量や図形についての技能 | 64.4 | 68.0 | 67.4 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 62.4 | 66.3 | 65.4 |



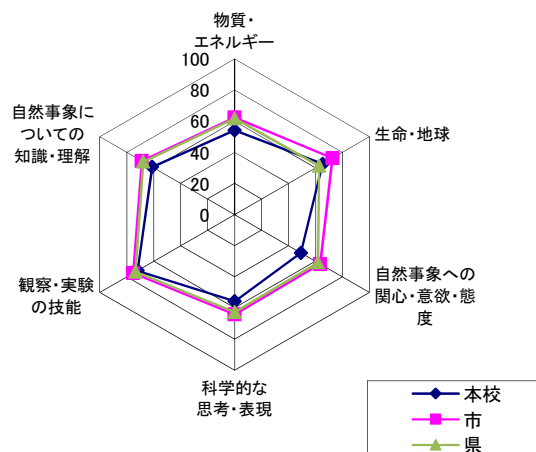
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算では、ほとんどの設問で県や市の正答率と同等であるが、3桁÷2桁のわり算や小数第二位÷整数＝小数第二位の計算において、正答率が5割と低くなっている。 十進位取り記数法についての設問は、正答率が県や市を上回り、8割以上の正答率である。しかし、大きい数が1000万のいくつ分であるかを問う設問では、正答率が6割と低く、数の相対的な大きさについての理解が不十分である。 小数を用いた重さの単位換算の設問は、正答率が5割と低い。 概数の表し方に関する設問は、正答率が8割以上であるが、概数に対応する数の範囲を求める設問では、正答率が3割と低い。 わり算を用いて何倍かを求める文章問題から、正しい線分図を選択する設問は正答率が低い。基準量と比較量の違いを捉えることが難しく、理解が十分ではない。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な加減乗除の計算は、朝の学習の時間や家庭学習等を活用して繰り返し取り組んだことで定着が図れてきている。今後も、継続して取り組み、基礎基本の定着を図っていく。 わり算の計算では、仮商修正の必要な問題で間違いが見られるので、重点的に復習を行い定着を図る。 小数の学習では、小数を10倍、100倍、1/10、1/100した数の大きさを、単に小数点の移動と考えるのではなく、数直線や具体物などを活用して量的な大きさが捉えられるよう指導する。 何倍かを求める設問では、線分図を活用し、比較量と基準量の数量の関係を正しく捉えさせるよう指導する。そのためにも、日頃から線分図を描くことに慣れさせ、文章題から比較量と基準量を読み取れるように指導していく。 概数の問題では、以上、以下、未満などの用語の意味を復習し、同様の問題に取り組むことで定着を図る。 |
| 量と測定 | <p>平均正答率は、県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分度器を用いて角度を測定する設問は、正答率は県や市とほぼ同じである。 面積を求める問題は、長方形の面積を求める問題で県や市の正答率を下回っている。また、身近にあるもののおよその面積を求める問題では、正答率が3割と低い。さらに、長方形を5等分し、その一つの辺の長さを求める問題では、県や市の正答率をかなり下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃の授業の中に、長さや面積、角度などの測定体験を多く取り入れ、量についての感覚を豊かにするよう指導を行う。 面積の学習では、様々な図形の面積や体積を求める公式を整理して使えるように、繰り返し指導を行う。また、面積を求めるだけでなく、1つの辺と面積から、もう1方の辺を求める問題に取り組み復習を行う。 |
| 図形 | <p>平均正答率は、県や市とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 四角形の対角線に関する設問では、正答率は県や市を上回っているが、正答率が6割と理解が十分とは言えない。 ひし形の作図の問題では、正答率がほぼ9割で県や市を上回っている。 平行四辺形の特徴を活用して解く問題では、正答率が1割以下とかなり低い。 | <ul style="list-style-type: none"> 図形の作図の学習では、与えられた1辺の続きを作図するような条件のある作図に取り組み、様々な方法で作図する力が身に付くように繰り返し指導を行う。その際、辺の長さ、角の大きさ、平行などの図形の定義についても再確認しながら指導していく。 |
| 数量関係 | <p>平均正答率は、県や市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、正答率が県や市を下回っている。また、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が2割と理解が不十分であると言える。 計算のきまりの問題では、正答率が県や市を下回っており、分配法則の理解が不十分であると言える。 2次元表の読み取りに関する問題では、正答率が3割と低い。また、折れ線グラフと棒グラフの数値から変化の様子を読み取り、説明する問題では正答率が1割であることから、グラフや表を活用する力を身に付けていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 計算のきまりは、記号や文字で表記されると分からなくなる場合があるので、実際の数字で考えたことを言葉で説明したり、友達に伝えたりする場面を設け、記号や文字を用いても理解できるように指導していく。 伴って変わる2つの数量から、もう一方の値を求める問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して2つの数の変わり方に気付けるよう指導していく。 日頃から、様々な教科で、グラフや表などの資料から情報を読み取る活動を効果的に取り入れ、グラフや表を活用する力を身に付けさせる。また、自分の考えを書いて説明する活動を日頃の授業の中に位置づけ、条件を整えて説明する力を身に付けさせる。 |

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 54.1 | 62.4 | 61.7 |
| | 生命・地球 | 65.2 | 72.5 | 62.6 |
| 観点 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 49.1 | 63.4 | 61.7 |
| | 科学的な思考・表現 | 55.7 | 64.1 | 62.6 |
| | 観察・実験の技能 | 72.0 | 75.2 | 73.5 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 61.2 | 68.8 | 67.8 |



★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、市や県を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水のすがたのグラフから水の状態を読み取る問題では、正答率が60.5%と高く、県の平均を上回っている。 ・電気のはたらきに関する問題で、「電流」という言葉を答える設問で、正答率が60.5%と高い。 ・投げ込みヒーターの棒の部分が長い理由を水のあたたまり方から推測する問題では、正答率が5.3%と低い。 ・おもちゃ内の豆電球が光る仕組みを推測する問題では正答率が28.9%と低く、理解ができていない。 ・豆電球をより明るくするつなぎ方を問う、その理由も合わせて説明する設問では、正答率が25.0%と県の平均と比べて低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する基礎・基本の知識を習得できるように、単元末などのドリル学習をさらに強化していく。 ・生活体験と質問が一致していれば正答できるが、そうでない問題に課題があるので、実験結果や考察などから、さらに踏み込んで自分たちの生活に結び付けて考える時間を確保して指導していく。 ・図や言葉を見て、深く考えずに答えてしまっている場合が見受けられるので、問題文や資料をよく見て、与えられた情報を活用して問題が解けるよう、発展的な問題を扱う頻度をさらに増やしていく。 |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、市や県を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然の中の水」での、密閉された容器では水蒸気が出ていかず、内側に水滴が付くことを答える問題では、正答率が28.9%と低く、県の平均を下回っている。 ・月の形の名称を問う問題では、正答率が97.4%と高く、県の平均を上回っている。 ・誤った星座の観察方法を指摘する問題では、正答率が72.4%と県の平均を上回っている。 ・正しい気温の想定方法を選択する問題では、正答率が52.6%と低く、気温の測り方が理解されていない。 ・一部だけ示された方位から、他の方位を推測する問題では、正答率が28.9%と低く、県の平均を下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する基礎・基本の知識を習得できるように、単元末などのドリル学習をさらに強化していく。 ・実験結果が定着していないと思われる場面があるので、実験結果をデジカメなどで撮影し、印刷したものをしばらく掲示しておくなどICTを活用して対応していく。 ・気温の測り方など基本的な技能で、復習が必要と思われるものに関しては、実際に道具を使って再度体験する時間を設けるなどの対応をしていく。 ・方位に関しては、社会の授業とも連携を図り、方位磁針を活用する場面を増やし、感覚的に理解ができるよう指導していく。 |

宇都宮市立田原西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

・「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」という質問で、いいえと回答した市の平均が15.4%だったのに対し、本校は31.6%と市の平均を2倍程度上回っている。「家で宿題をしている。」と100%が回答しているのを踏まえ、与えられたことは行うが、苦手なところや学習すべきことを自分で考えて学習することができていないと考えられる。

・「家で学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は84.2%と市の平均を上回っているが、「平日、1日当たりどれくらい勉強しているか。」という質問において、1時間以上していると回答した市の平均が56.2%だったのに対し、本校は47.4%と下回っている。すでに示してあった家庭学習時間の市平均などを保護者に再提示し、学習時間を確保できるよう協力をお願いする必要がある。

・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童の割合は55.2%で市の平均49.8%を上回っている。「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した割合も本校が89.5%で市の平均が82.0%だったことから、友達がしっかり話を聞いてくれるという安心感があることがよい影響をもたらしていると考えられる。引き続き、学習だけでなく、学級経営についても友達同士のよい関係が築けるよう指導していきたい。

・「毎日朝食を食べている」と答えた割合が94.7%、市の平均が89.3%、「早寝早起きを心がけている」と答えた割合が89.5%市の平均が79.6%という結果だったことから、望ましい生活習慣が身につけているということがわかった。

・「平日どれくらいゲームを行うか」という質問に対し、2時間以上と回答した児童の割合が42.1%、市の平均30.7%を上回っている。睡眠時間は市の平均と同じくらいだったことを考えると、ゲームを行う時間が長い児童が市の小学生と比べ多いと考えられる。

・「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童が95.4%と、市の平均90.2%を上回っている。「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問で「はい」と答えた児童の割合が市の平均よりも11.0%上回っていることから、家庭での会話が増え、将来のことを意識する機会が多くなっていると考えられる。

・「国語・算数・社会・理科の授業が好きか」という質問において、「いいえ」と回答した児童がそれぞれ44.7%・39.5%・36.8%・23.7%、市の平均がそれぞれ31.1%・29.8%・35.3%・14.4%と、全ての教科において市の平均を上回っている。今後も、児童の興味関心を高めることができるような授業を展開し、達成感を味わわせたい。

宇都宮市立田原西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりを中心とした対話的な授業 ・書く力を高める教科横断的授業の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の授業をコーディネートする力を高めるための研修を行っている。 ・国語の「書くこと」の領域を中心に、授業や日常生活の中に書く機会を意図的に位置付け、具体的な方法を指導している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・4年では、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は市を約7%下回っている。5年では、「友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童の割合は市を約5%下回っている。 ・国語の「書くこと」の領域の平均正答が、4年で約4点、5年で約10点、市を下回っている。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容が分かる」と回答した児童の割合が、4年の算数・理科、5年の算数で県や市を下回っている。5年においては全ての教科の結果が市や県を下回っていることから、自分の学力を過大評価している傾向が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が分かる喜びを味わうことのできる授業や支援の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の到達度を実感できるよう、学習の初めに、めあてを必ず共有する。 ・学習の終末には、本時や本単元の課題に対し、まとめや振り返りを書く時間を設け、学びを言語化することで分かったことを意識させ、分かる喜びを実感させる。 ・個別の課題に対しきめ細かく支援したり、児童の取り組みに対し丁寧に反応したりし、認め励ます機会を増やす。 |